

健苗育成と作土深の確保で品質向上

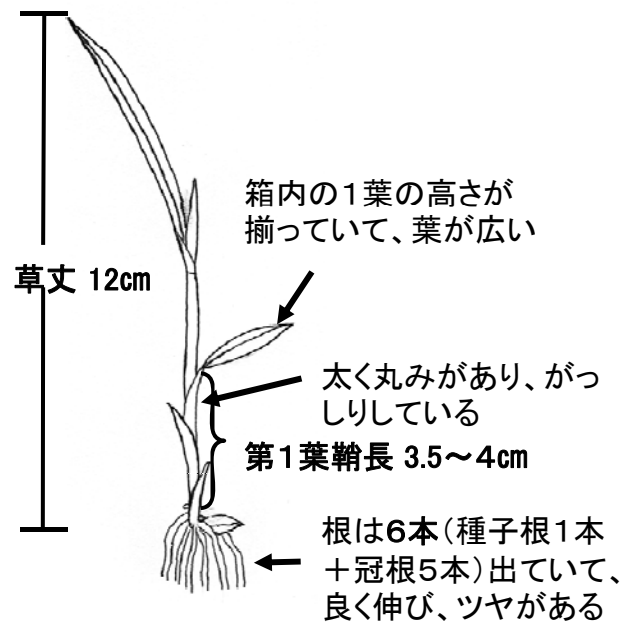
1 高温による苗の伸びすぎに注意しましょう

○5月下旬まで高温気象が予報されています。気温が上がりそうな日は、ハウスを早めに十分開け、換気しましょう。

【硬化期間中の管理】

温度管理	昼 15~20℃ 夜 10℃以上 ○ハウスビニールを十分開け、外気に慣らす ※低温時はムレ苗を防ぐため、8℃以下にならないよう管理する
水管理	○前半は1日1回、後半は乾き具合を見て午前・午後の2回 ※夕方は根張りが不良になるので、やらない

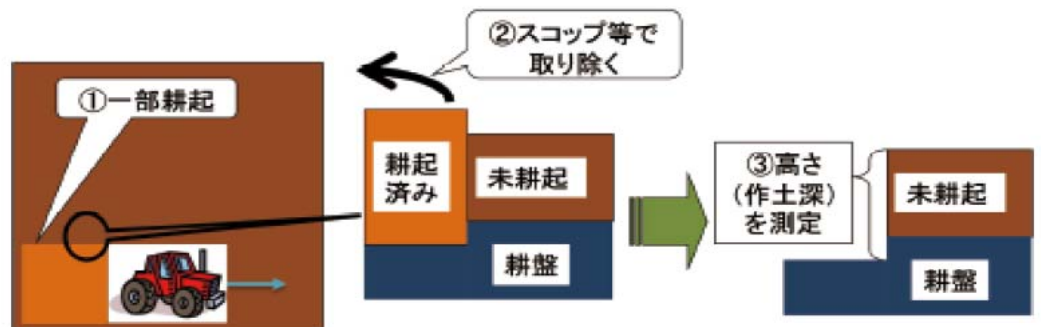
2.2葉の理想苗（稚苗）



2 15cmの作土深で高温等の抵抗力アップ

- 水稲は生育に必要な栄養のほとんどを作土層から得ています。
- 作土が浅いと、水稲の根が上部に集中し、高温や乾燥に対する抵抗力が低下します。
- 耕起前(前年度の作土深)と耕起中に作土深の確認をしましょう。
- 作土深が13cm未満の場合は毎年1~2cmずつ耕深を深めてください。

【耕起作業中の作土深の測定方法】



家族や仲間と声掛け合って、農作業事故をなくしましょう！

JA北魚沼・魚沼農業普及指導センター

今年のポイント！

早期茎数確保と水田内雑草防除

- ていねいな田植作業と水管理で、初期生育を促進しましょう。
- 田面の均平に努め、漏水を防止して、除草剤の効果高めましょう。
昨年度、ヒエやホタルイが多発生した場合は特に注意しましょう。

1 田植とその後の水管理

(1) 弁当肥の施用

- 移植後の活着を早めるため、田植え4～5日前頃に窒素成分で1～2g/箱程度の弁当肥を施用しましょう。

(2) 田植は5月15日～20日の間に実施を

- 夏の高温障害を回避するため、早すぎる田植は避けましょう。
- やむを得ず田植えが遅れる場合は、稚苗で5月25日、中苗で5月30日までに田植えを終了しましょう。

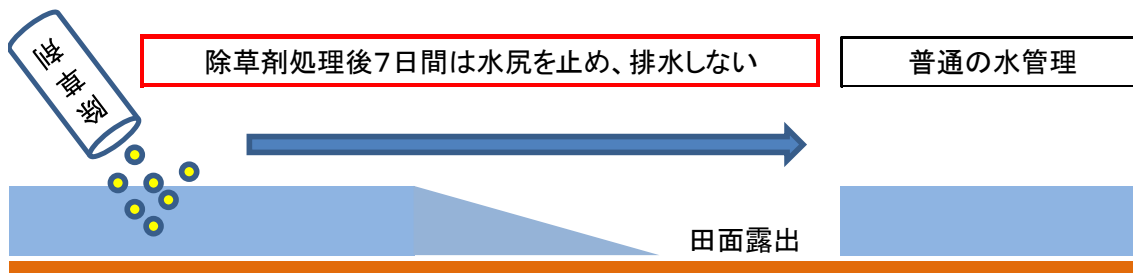
(3) 田植後の水管理

- 田植後活着するまでは、3～4cmの水深で保温的な水管理を行い、活着後は2～3cmのやや浅水で、水温の上昇を凶り分けつの発生を促しましょう。

2 除草剤の適正使用で水田内雑草防除

- 除草剤が均一に拡散するよう田面の均平に努めましょう。
- 雑草の種類や葉令(大きさ)、稲の生育状況を把握し、適期から遅れずに散布しましょう。
- 除草剤処理後4～5日間は、湛水状態を保ちましょう。

丁寧な畦塗り・代かき
で漏水を防止



2～3日田面が露出しても除草効果に問題なし
田面がヒビ割れするような場合は、事前にゆるやかにかん水

※除草剤は、登録内容・使用上の注意を必ず確認してから使用しましょう。

不明な点は農協営農センターまたは普及センターまでおたずねください。

JA北魚沼・魚沼農業普及指導センター